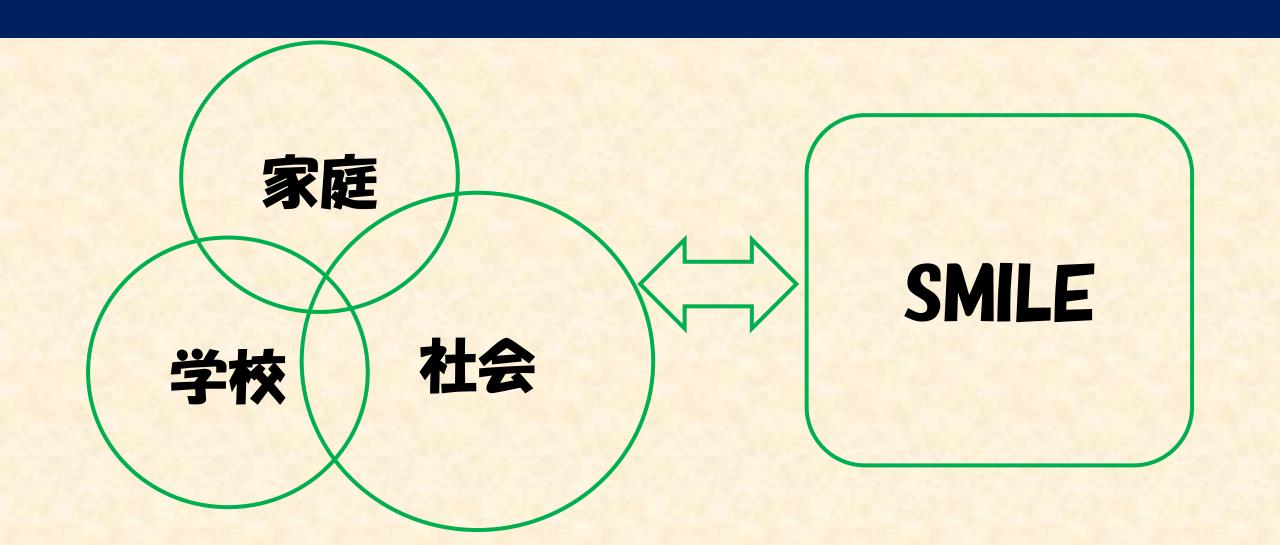


## Vision

# 全ての人に「イキテル」を

『全ての若者が、安心して輝ける居場所ある社会』

# Way



# Purpose

# 中高生の子どもたちの自己肯定感を育み、 不登校・自殺・非行などの教育問題に負けない 居場所づくりをすること



- ①S-team
- ② ライフ in 灯
- 3勉強会
- ④ごはん事業



## 高校生のありのままが認められる居場所





不登校や児童養護施設に通う女子高校生 や国語や数学で評価されない女子高校生 がネイルで評価されてもいいじゃん!





### S-team

## ライフ in 灯

#### 京都市民のこころに灯がともる居場所



自殺の現状や予防の取組みを知ってもらい、いのちの大切さについて考えてもらいます。 ex)キャンドル、トリックアート、ネイル ブース





## 勉強会

#### 大学生が社会問題を学べる居場所



月に数回、キャンパスプラザ京都のフリースペースを用いて、メンバーと一般参加者を交えながら、ワークショップやディスカッションを行い、学びを深めています。





## ごはん事業

#### メンバーにとっての居場所





月に一回、京都市の青少年活動センターでメンバーみんなでご飯を作って食べ、親睦を深めることによって普段の活動の活性化を図ります。





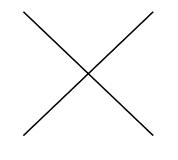
S-team





#### 内容







JK

おばあちゃん

JKの<br/>
得意とするメイクやネイルを活かして<br/>
老人ホームにいるおばあちゃんに対して<br/>
ネイルや化粧のボランティアを行う

#### JKの 現状

### 自分自身に満足しているか



(平成26年	子ども・	·若者白書	内閣府調べ)

強い	相関			木	関				弱し	<b>\</b> 相]	Ę			相関	なし	
不安		引きこもり 身体		社会性 思考		注意		規則		攻撃						
	男	女					男									女
自己認識と他者認識	0.00	<b>)</b> 2ŧ	0.609	0576	0.369	0.651	0.687	0)99	0.336	0.64	0.644	0.321	0.311	0.397	0.506	0.499
本人の不安とその他の項目	-	_	0.791	0505	0.595	0.526	0.764	0.746	0.681	0291	0.702	0.496	0.804	0.52	0.753	0.677

日本人の自己肯定感は圧倒的に低く特に高校生に顕著に見られる。

男性よりも女性の方が不安・対人関係の問題が多い

自分に自信のない女子高生は74%

#### JKの 現状

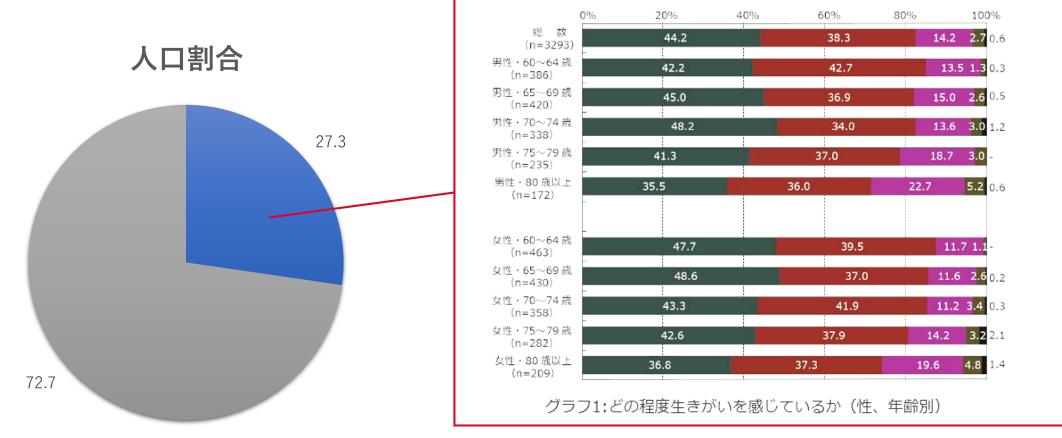
### 女子高生に居場所があるか



行き場を失う女子高生

### 高齢者 の現状

### 人生に生きがいを感じているか

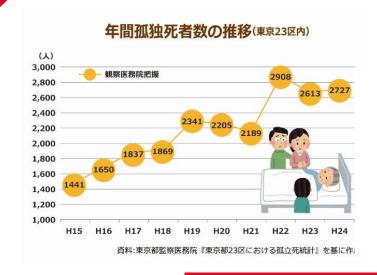


■高齢者 ■若者

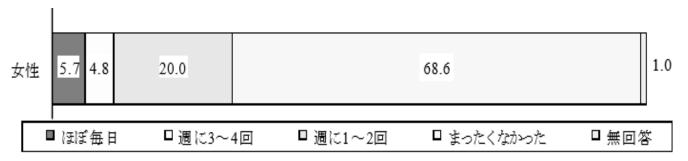
4人に1人は高齢者の超高齢化社会の日本で 半数の高齢者が生きがいを感じることが出来ていない

#### 高齢者 の現状

### 高齢者に居場所はあるか



高齢単身女性が1週間以内に一人ぼっちでさみしいと感じた頻度



#### 高齢者で孤独な人は一定数いる



犯罪に走る割合が高くなる

# JKもおばあちゃんも 「おしゃれ」で自分らしさを発揮できる 居場所の提供



#### サービス





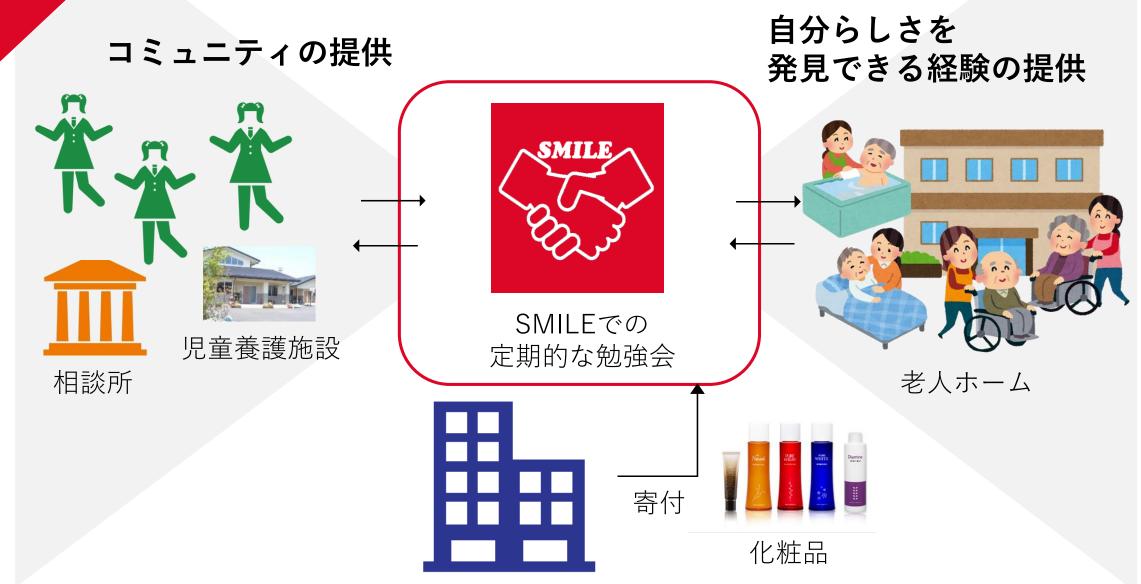


●Step2● 老人ホーム

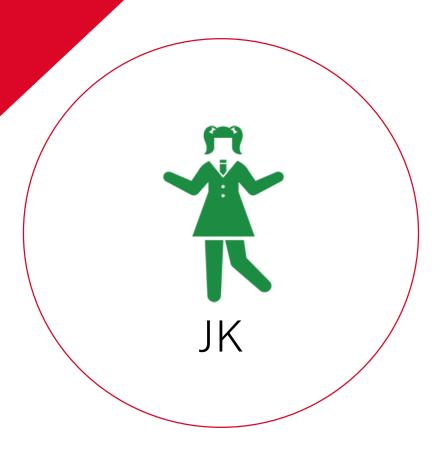


●Step3● 写真撮影

# 事業の流れ



#### 効果



#### 出来るを活かして自己実現

- ・認められることの少ない子供たちが自分のしたことを褒められることによる自信の創造。
- ・自分の「出来る」をより多く見つけることによる成功体験の経験。

#### つながりで居場所作り

- ・居場所ができることによる、逃げ場や相談相手の増加
- ・同じ世代で同じ気持ちを持っているからこそ、解決できる問題の増加

#### 年上からまなぶこと

- ・大学生による進路相談
- ・高齢者による人生相談
- ・いきいきしている大人を見ることによって「将来への希望」を持てる

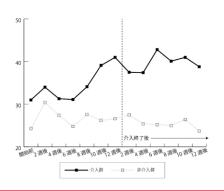
#### 効果



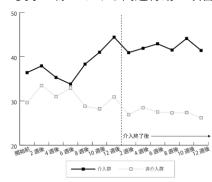
#### 気持ちが前向きに

・周囲との交流頻度が向上したり、対応困難行動の低下が見られることが予想される

集団体操参加への積極性や意欲



食事の際における問題行動の改善



#### 脳の活性化

- ・脳の血流が高まる。
- ・ストレスホルモンの減少。
- ・化粧療法を継続した群は、継続しなかった群に比べて3カ月後の認知機能の低下の抑制がみられる。

#### 発語機能の向上

- ・約50分間の化粧療法を実施した場合、唾液分泌量が増加。
- ・化粧療法を3ヶ月行ったところ、30秒中の嚥下回数が増えた人が増加。
- ・化粧療法を6ヶ月行った人は発語機能が向上、下や唇の動きがスムーズになった。



## おわり

ご清聴ありがとうございました